

2010年9月6日

社会保障審議会介護給付費分科会

一部ユニット型をめぐる議論について

慶應義塾大学 田中 滋

1. この議論の主題を「ケアの在り方論争」として捉える本質を見誤る
 - 1.1 ユニット型推進はすでに確認された目標である
 - 1.2 従事者の働き方はマネジメントで解決すべき課題に属する
 - 1.3 なお今後ともケアの実態、従事者の実情を実証的に把握し、さらなる進展を研究する努力を怠ってはならない
 - 1.4 特別養護老人ホームに対する「待ち行列」への対処策として論ずべきテーマとは異なる
2. 議論の主題は「ニーズをもち、かつ相対的に所得の低い方々にいかにして施設ケアを提供するか」につきると思われる
 - 2.1 その方策は別途検討すべき。
3. 在宅復帰機能を果たしている老人保健施設に関しては別建てで考えてよい
 - 3.1 終の棲家サービスと在宅復帰・在宅支援サービスは性質が異なる
4. 介護報酬の返還は付随的な課題と割り切る方がよい
 - 4.1 国の責任は逃れられないのではないか
5. ユニット型にかかわる各種基準等は、今後柔軟性をもたせるよう分科会での議論に期待したい